

〈特集「否定、形容詞と連体修飾複文」〉

インドネシア語における否定と形容詞、連体修飾 Negation and Attributeive clauses in Indonesian

菅原 宜優
Takamasa Sugawara

東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿では、特集のアンケート例文により、インドネシア語における否定と形容詞、連体修飾の状況について例文データを示す。

Abstract: This article provides Indonesian data collected by using the questionnaire “Negation, adjectives, and relative clauses” for the present issue.

キーワード: インドネシア語、否定、形容詞、連体修飾、複文

Keywords: Indonesian, negation, adjective, adnominal modification, complex sentence

1. はじめに

本稿は、特集のアンケート例文により、インドネシア語における否定と形容詞、連体修飾の状況についての例文データを示すものである。コンサルタントである A.H.氏は 1987 年ジョグジャカルタ州生まれのインドネシア語/ジャワ語話者である。日本語のできる方であるため、日本語を媒介言語にして、例文の意味内容を伝える上での自然な表現としてのデータを収集した。調査で得られた例文は、一部ジャワ語の影響を受けて綴りや発音が異なっており、加えて口語的な表現や文例が多く収集されたが、そのようなものについては、筆者による本文中での補足や注釈で都度解説する。特に断りのない限り、例文のグロスや複数の例を提示する際に用いるアルファベットの振り分けは筆者によるものである。本稿による分析や解説の間違ひは、筆者の責任に帰するものである。

2. 例文データ

1. これは私の本ではない。[名詞述語文/コピュラ文の否定]

Ini bukan buku-ku.
this NEG book -1SG

インドネシア語の否定は、否定詞 *bukan* と *tidak*¹を用い、原則として前置否定の語順を取る。名詞述語文/コピュラ文の否定には、否定詞 *bukan* を前置して表す。一方、非コピュラ文の否定には基本的に *tidak* (*nggak*)を用いる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

¹ アンケート調査で得られた例文では *nggak* という口語的な否定詞が現れたが、原則として *tidak* に相当する。

2. この部屋には椅子がない。[存在文の否定]

Kamar ini nggak ada kursi-nya.
room this NEG exist chair-DEM

存在文の否定には、否定詞 **tidak (nggak)** を前置して表す。

3. この部屋には一つも椅子がない。[全部否定・モノ]

Kamar ini sama sekali nggak ada kursi-nya.
room this not.at.all NEG exist chair-DEM

全部否定は、**sama sekali**（全く～ない）という表現を否定詞に共起させて表現する。

4. その部屋には誰もいない。[全部否定・ヒト]

Kamar ini nggak ada orang-nya.
room this NEG exist human-DEM

直訳すると、「この部屋は人がいない」となる。

5. その本はこの部屋にない。[所在文の否定]

Buku itu nggak ada di kamar ini.
book that NEG exist in room this

所在文の否定は、**tidak (nggak)** を述部に前置して表す。

6. この犬は大きくない。[形容詞文の否定]

Anjing ini nggak besar.
dog this NEG big

形容詞文の否定は、**tidak (nggak)** を述部に前置して表す。

7. この犬はあまり大きくない。[形容詞文の部分否定]

Anjing ini nggak gitu besar.
dog this NEG like.that big

形容詞文の部分否定は、**tidak gitu²** 「そんなに～ない」を述部に前置して表す。

8. この犬はあの犬より大きい。[比較級]

Anjing ini lebih besar dari anjing itu.
dog this more big from dog that

² 標準インドネシア語における *begitu* の短縮形。会話では、*tidak begitu* に相当する表現として、*nggak gitu* がよく用いられる。

比較級は「lebih + 形容詞相当語」で表し、比較対象は「dari(pada)³ + 比較対象」で表される。

9. この犬がその犬たちの中で一番大きい。[最上級]

Anjing ini yang paling besar di antara anjing-anjing itu.
dog this REL most big in among dog~dog that

最上級は「paling + 形容詞相当語」で表す。

10. 今日はあの人はい来ない。[自動詞文の否定]

Hari ini orang itu nggak dateng⁴.
day this human that NEG come

自動詞文の否定には、否定詞 tidak (nggak)を用いる。

11. あの人はその本を持って行かなかった。[他動詞文の否定]

Orang itu nggak mbawa⁵ pergi buku itu.
human that NEG bring go book that

他動詞文の否定も、自動詞同様に否定詞 tidak (nggak)を用いる。

12. 全ての学生が参加しなかった／学生は全員参加しなかった。[数量の全部否定]

- a. Semua siswa nggak ada yang ikut serta. (全ての学生が参加しなかった)
all student NEG exist REL follow join
- b. Siswa-siswa semuanya nggak ada yang ikut serta. (学生は全員参加しなかった)
student~student all NEG exist REL follow join

a の文では、「全ての学生」が主部に置かれ、以降の述部を tidak (nggak)が否定し、「参加したのはいない」という形を取る。b の文では主部の直後に semuanya (～は皆) を置き、以降の述部否定は a 同様に tidak (nggak)を前置して表現する。

13. 全ての学生が参加したわけではない。[数量の部分否定]

Nggak semua siswa ikut serta.
NEG all student follow join

例文では、否定詞 tidak (nggak)が semua (全て) という語を否定しており、直訳すると「すべてではない」という否定構造を構成する。

³ 標準インドネシア語では daripada を用いるが、口語では dari もよく用いられる。

⁴ dateng [datəŋ]、標準インドネシア語では datang [datəŋ] 「来る」に相当する。

⁵ mbawa [mbawa]、標準インドネシア語では membawa [məmbawa] 「持ってくる」に相当する。

14. (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。[文の否定]

(Aku nggak beli, tapi) bukan arti-nya harga-nya mahal.
1SG NEG buy but NEG mean-DEM price-DEM expensive

例文において、arti につく nya は「私は買わなかった」という内容を指し、harga につく nya は「買おうとしたもの」を指している。これに則り直訳すると「私は買わなかった。しかし(そのことは)意味が、買おうとしたものの値段が高いという訳ではない」となる。柴田(2002:35)は、bukan の否定対象について、「特定の予断や予測にもとづく質問に対して、相手の予断や予測を否定する『いいえ、そうではありません』には bukan を使う」としている。例文では否定詞 bukan が arti (「値段が高かった」という相手の予測) にかかるため、tidak (nggak) は現れなかったと考えられる。

15. 走るな！ [禁止]

Jangan lari-lari!
PROH run~run

禁止は、jangan 「～してはだめだ」を禁止する動作に前置して用いる。これは、他動詞文の禁止も同様である。

16. 大きな声を出すな！ [他動詞文の禁止]

Jangan teriak!
PROH shout

例文を直訳すると「叫ぶな！」となる。アンケート回答では teriak 「叫ぶ」という自動詞が用いられた。コンサルタントが「大きな声を出す」という日本語に対し teriak 「叫ぶ」が意味内容を伝える上で自然な表現であると判断したためと考えられる。なお、命令を含む他動詞文の禁止を表す際、原則として用いる動詞は、接頭辞 meN-、di-を伴わない語形を用いる⁶。

17. 明日は雨は降らないだろう。[推量の否定]

Besok kayak-nya nggak hujan.
tomorrow seem-DEM NEG rain

例文では推量の否定を、推量部分である「雨が降らない」に kayaknya⁷ 「～のようだ」を前置して表している。

18. あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。[目的節の否定]

Ngomong-nya jangan keras-keras, biar orang nggak denger⁸.
speak-NMLZ PROH loud~loud in.order.to human NEG hear

⁶例: Jangan keluarkan anggota badan. 「体の一部を外に出してはいけない」(keluarkan 「出す」、cf. mengeluarkan 「AV-出す」、dikeluarkan 「UV-出す」)。例文は、Quinn (2001: 812)より引用した。

⁷ やや口語的な表現で、標準インドネシア語では sepertinya / rupanya / kelihatannya 等が用いられる。

⁸ denger [dəŋər]、標準インドネシア語では dengar [dəŋər] 「聞く」に相当する。

目的節の否定は、節内の動作に否定詞 *tidak* を前置して表現する。例文を直訳すると「喋るのはうるさくしないでくれ、人に聞こえないように」となる。

19. 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。[否定のスキープの調節]

a. *Aku nggak bilang gitu untuk bikin kamu marah.*

1SG NEG say like.that to make 2SG angry

b. *Aku bilang gitu bukan untuk bikin kamu marah.*

1SG say like.that NEG to make 2SG angry

A.H.氏によると、a が原文に近い訳であるが、b のほうが自然に聞こえるそうである。b のニュアンスは、「私がそう言ったのは、あなたを怒らせようと思っているからではない」に近いとのことである。

20. 私が昨日買ってきた本はどこ（にある）？ [内の関係の連体修飾節・目的語]

a. *Buku yang aku beli kemarin di mana ya?*

book REL 1SG buy yesterday in where P

b. *Mana buku yang aku beli kemarin?*

where book REL 1SG buy yesterday

原則として、インドネシア語の関係節は後置修飾で、*yang* 節によって構成、表現される。A.H.氏によると、a は単純な疑問を表す際の言い方で、b は怒りっぽいニュアンスを含む言い方であるとのことである。

21. その本を持って来た人は誰（か）？ [内の関係の連体修飾節・主語]

Yang membawa buku itu ke sini siapa ya?

REL bring book that to here who P

例文のように、*yang* 節 (*mbawa buku itu*) は主語の位置に置くことができる。

22. この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。[内の関係の連体修飾節・場所]

a. *Kamar ini kamar tempat kami bekerja.*

room this room place 1PL.INCL work

b. *Ini kamar kerja kami.*

this room work 1PL.INCL

a の *tempat kami bekerja* という修飾節は、*tempat* 「場所」がいわゆる関係副詞的な用法で現れた例と考えられ、この節が *kamar* 「部屋」を修飾している。A.H.氏によると、b のほうが自然な表現で、「これ（この部屋）は私たちの仕事部屋だ」というニュアンスになるという。

23. 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。[内の関係の連体修飾節・所有者]

Kursi yang satu kaki-nya patah itu sudah aku buang.

chair REL one foot-DEM break that PERF 1SG throw.away

kaki につく nya は kursi 「椅子」を指し、yang 節 “kakinya patah” 「その足が折れている」が連体修飾節として kursi にかかっている。いわゆる二重主語文の関係節化の一例である。

24. ドアを叩いている音が聞こえる。[外の関係の連体修飾節]

Ada suara ketok-ketok⁹ pintu.
exist sound knock-knock door

例文を直訳すると、「ドアのコツコツ（と叩く音）がある（＝聞こえる）」となる。

25. あの人が結婚したという噂は本当（か）？ [外の関係の連体修飾節]

Beneran¹⁰ kata-nya orang-orang kalo¹¹ dia sudah nikah?
true word-DEM human-human if 3SG PERF marry

文全体が特に口語的であり、直訳すると「彼が結婚したのかどうかという人々の言葉は本当か？」となる。

26. 私はその人が来た時にご飯を食べていた。[時間節]

Aku tadi lagi makan pas dia datang.
1SG a.while.ago still eat just 3SG come

例文では pas 「ちょうど～した時」という語が出現しているが、標準インドネシア語では ketika / waktu / saat 「～の時」等の語が一般的である。pas は本来副詞的な語であるが、会話では例文のように接続詞的に用いて時間節を導く用法が見られる。

27. 私はその人が待っている所に行った。[場所節]

Aku tadi pergi ke tempat dia nunggu¹².
1SG a.while.ago go to place 3SG wait

例文では、場所節は「場所＋節内動作主＋動作」で構成される。

28. 私はその人が走っていったのを見た。[補文節・視覚]

Aku tadi liat¹³ dia lari-lari.
1SG a.while.ago see 3SG run

視覚・聴覚・知識に関する補文節は原則、「知覚動詞＋補文節内の主語＋動作」の語順を取る。

⁹ ketok-ketok [kətoʔ- kətoʔ]、標準インドネシア語では ketuk-ketuk [kətuʔ- kətuʔ] 「コツコツ(擬音)」に相当する。

¹⁰ beneran [bənəran]、標準インドネシア語では benar [bənar] 「本当の、正しい」が用いられる。

¹¹ kalo [kalo]、標準インドネシア語では kalau [kalau] 「もし～なら」に相当する。標準インドネシア語では kalau の代わりに、bahwa 「～ということ」をしばしば用いる。

¹² nunggu [nunɡu]、標準インドネシア語では menunggu [mənuŋɡu] 「待つ」に相当する。

¹³ liat [liatʰ]、標準インドネシア語では lihat [lihatʰ] 「見る」に相当する。

29. 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。[補文節・聴覚]

Tadi malem¹⁴ aku denger mereka ngobrol¹⁵.
a.while.ago night 1SG hear 3PL speak

30. 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。[補文節・知識]

Aku tau kalo dia ke sini kemarin.
1SG know if 3SG to here yesterday

31. a. (昨日) 彼は彼が昨日ここに来たと言った。/ b. (昨日) 彼は、「私は今日ここに来た」と言った。
[補文節・直接発話/間接話法]

a. (Kemarin) dia bilang kalo sempet¹⁶ ke sini hari itu.
yesterday 3SG say if have.a.chance to here day that
b. (Kemarin) dia bilang, “aku tadi ke sini hari ini.
yesterday 3SG say 1SG a.while.ago to here day this

補文節は、原則として伝達/発話動詞に基本語順で後続する。a を直訳すると「(昨日) 彼は今日ここに来れる機会があったと言った (そして実際に来て、今はいない)」となる。

32. 私はリンゴが (あの) 皿の上にあったのを食べた。[内在節・従主・主目]

Aku tadi makan apel yang ada di atas piring itu.
1SG a.while.ago eat apple REL exist at above dish that

直訳は、「私は少し前にその皿の上にあったリンゴを食べた」となり、yang 節 “ada di atas piring itu” 「その皿の上にある」が apel 「リンゴ」を修飾している。

33. 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。[内在節・従主・主目]

a. Aku tadi nangkep¹⁷ kucing yang nyelonong¹⁸ masuk rumah.
1SG a.while.ago catch cat REL appear.suddenly enter house
b. Aku tadi nangkep kucing pas dia nyelonong masuk rumah.
1SG a.while.ago catch cat just 3SG appear.suddenly enter house

A.H.氏によると、b の文は、猫が入ってきた瞬間に捕まえたことを表現する際の言い方であるという。直訳は「私は猫を、丁度家に入ってきたところで捕まえた」となる。

¹⁴ malem [maləm], 標準インドネシア語では malam [malam] 「夜」に相当する。

¹⁵ 「話す、おしゃべりする」の口語表現である。標準インドネシア語では bercakap-cakap 等が用いられるが、例文では ngobrol が最適な表現である。

¹⁶ sempet [səmpət], 標準インドネシア語では sempat [səmpat] 「～する機会がある」に相当する。A.H.氏によると、「sempet ke sini」で「(少し前) ここに来た (そして、今はいない)」という表現になり、ジョグジャカルタ州特有の言い回しである可能性があるとの内省を頂いた。

¹⁷ nangkep [naŋkəp], 標準インドネシア語では menangkap [mənaŋkap] 「捕まえる」に相当する。

¹⁸ nyelonong [nəlononŋ], 標準インドネシア語では menyelonong [məɲəlononŋ] 「急に現れる」に相当する。

略号・記号

1: first 1 人称

2: second 2 人称

3: third 3 人称

AV: actor voice 行為者ヴォイス

DEM: demonstrative 指示詞

INCL: inclusive (1 人称複数) 包括形

NEG: negative 否定

NMLZ: nominalizer 名詞化

P: particle 小辞

PERF: perfective 完了

PL: plural 複数

PROH: prohibition 禁止

REL: relative 関係詞

SG: singular 単数

UV: undergoer voice 非行為者ヴォイス

参考文献

風間伸次郎. 2017. 「アルタイ型言語における主要部内在型関係節について」, 北方研究教育センター (編) 『北方人文研究』 10: 3-33.

柴田紀男. 2002. 『CD エクスプレス インドネシア語』. 白水社.

Quinn, G. 2001. *The Learner's Dictionary of Today's Indonesian*. St. Leonards, N.S.W.: Allen & Unwin.

執筆者連絡先: sugawara.takamasa.s0@tufs.ac.jp

原稿受理: 2023 年 3 月 21 日